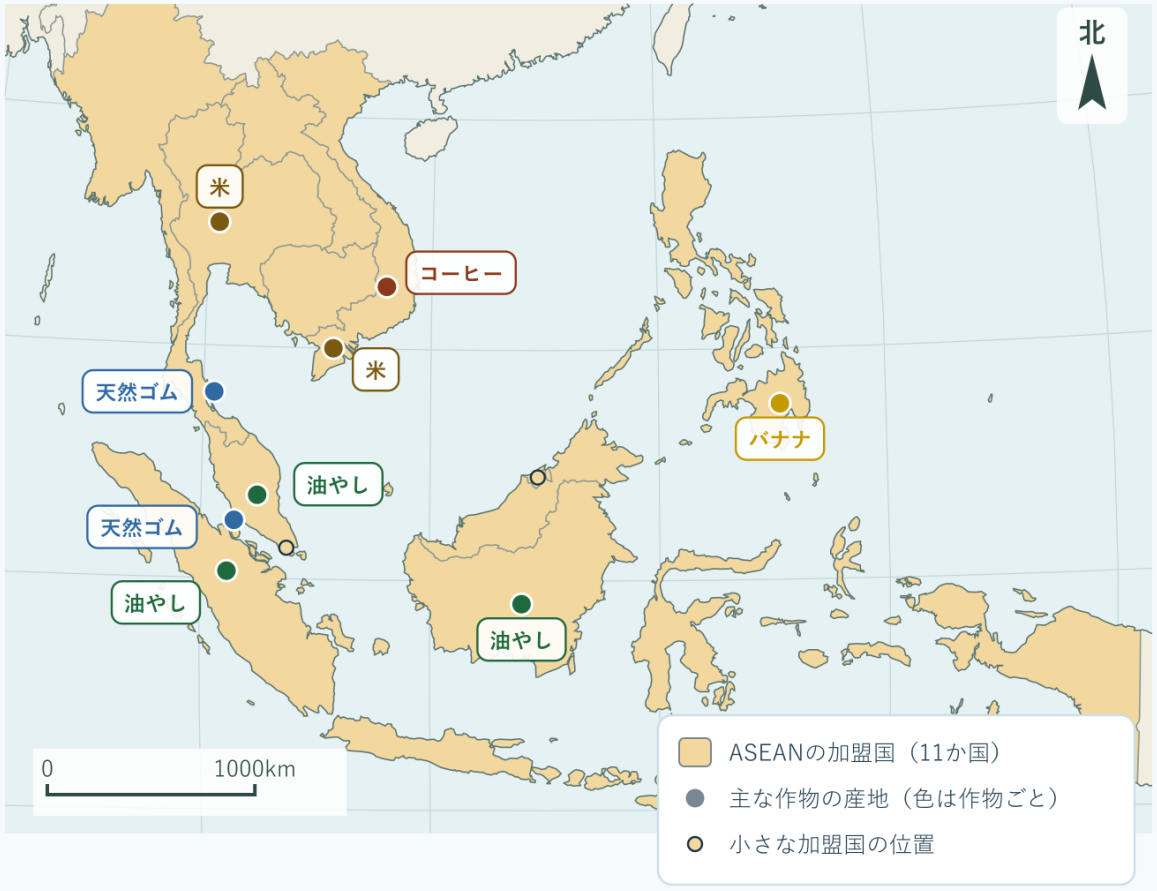
東南アジアのプランテーションとASEAN

東南アジアの国々は、農業と工業でどのように結び付いているか



農業から工業へ

植民地の時代

ヨーロッパの国々が大農園（プランテーション）を開き、輸出用の作物を育てる

独立後

天然ゴム・油やし・バナナ・コーヒーが大切な輸出品。米づくりもさかん

工業化

外国の企業が工場を建て、電気機械や自動車の部品などを輸出するようになる

ASEAN（1967年〜）

関税を減らすなどして、加盟国どうしの貿易や人の行き来をさかんにする

産地の印は代表的な位置の目安。加盟国は2026年時点（東ティモールは2025年に加盟）。数値は入れていない。